

# ピースマを通じて感じたこと～活動の薦め～

経済学部 経済学科4年 越川 智史

卒業要件単位を満たし就職活動も無事に終えた4年生の春、残りの学生生活をどう過ごそうか考えていた。サークルに所属していないし面白そうな授業もない。ゼミの卒論は3年の夏に提出している。本当にすることがなく暇を持て余していた時、突然高校時代の友達から飲みに誘われた。この飲み以降、私の残り少ない学生生活は暇なものから一気に充実したものに変わっていった。

彼は「Peace Smile」（通称ピースマ。①世にある様々な諸問題を敏感に察知②まずは自分達で勉強③勉強して得た知識を周りに広める活動を行う）、という学生有志団体のリーダーを務めている。その彼から自分たちのイベントに参加しないかと誘われた。イベントは「チャリチャリ」と言って、みなとみらい周

辺を自転車で漕ぎながらHIV／AIDSの啓発活動をするものであった。私は過去にこのような活動に参加した経験がない。ニュースなどを通じて飢餓、貧困、エイズ、環境といった社会問題に以前から関心はあったが、活動するなら遊んでいたい、というのがこれまでの正直な気持ちであり、結果的に学生団体などの活動に参加をするということはなかった。そんな私が、今回初めて参加することにしたのはあまりにも

時間を持て余していた、ということ、友達の高校時代を考えるとそのような活動をするとは思ってもいなかった。彼が一体どのような活動をしているのかに興味を持ったからである。友達には申し訳ないが参加の理由はこのような軽い気持ちだった。それでも参加するからにはHIV／AIDSに関する知識を身につけ

る必要がある。イベントに先駆けて行われた勉強会に出席した。

## ＜勉強会＞

知識の受け売りになるが、HIV／AIDSは私たちにとって身近な問題だと思っので勉強会で学んだことを紹介させてもらおう。

HIVとAIDSの違いはご存知だろうか？ HIVはヒト免疫不全ウイルス。AIDSは後天性免疫症候群の略称である。ややこしい名前、はともかく、「人間の体内にHIVが入り込み、そのウイルスが原因で次第に免疫力が弱まり様々な病気にかかってしまう」、というのがHIV／AIDSの流れになるのだが、HIVが体内に入り様々な症状を発症するまでの人をHIV感染者、HIVによってすでに何らかの症

状を発症している人をAIDS患者という。HIVよりもAIDSという言葉を目にすることが多いと思うが、「AIDSを予防する」というのは「HIVに感染しないようにする」、ということなのである。

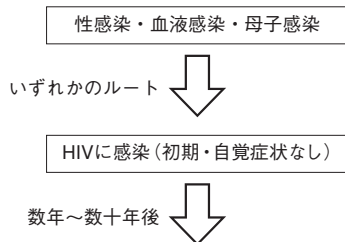
HIV感染者は特に20代、30代といった若者に多いので10代のうちにしっかりと教育を身につけることが感染防止に重要な役割を持つ。そのためにはHIV／AIDSが深刻な社会問題であると認識させるような内容にしてい

くべきではないだろうか。また、最近になって検査を促すCMを見る機会が増えたが、これまではそのような検査を無料で受けられること自体知らなかった人は多いと思う。HIV抗体検査普及の遅れは、気づかないうちに感染した人間がまた誰かを感染させてしまう、という悲しいサイクルを引き起こし、感染者・患者の増加を招いてしまった。そして、HIV感染者、AIDS患者に対する差別偏見が存在している・・・。

## ＜イベント＞

当日は30度を超す真夏日だったが、みんなでお揃いのTシャツを着て「エイズについてもっと知ろう。知ることから始めよう。」と声を出しつつ、みなとみらいを自転車ですら漕ぎ回り、山下公園やワールドポーターズでは若者を中心に啓発を行った。もちろんHIV／AIDSをこれ以上増やしたくない、差別偏見をなくしたい、という想いを込めて。啓発はクイズ形式にして私たちが解説していく、という方法をとった。初めは他人に声をかけることが恥ずかしかったし、緊張のせいでせっかく立ち止まって話を聞いてくれた人に知識をうまく伝えられなかった。しかし、そんな時はメンバーがサ

## 【HIV感染、AIDS発症までの流れ】



HIVの感染経路は①性感染②血液感染③母子感染、の三経路に限られている。アジアの途上国では注射の回し打ちによる血液感染の割合が比較的高いが、世界中、最も一般的な感染経路は性感染である（特に同性愛者同士の感染率が高い）。先進国の中では日本だけがHIV感染者・AIDS患者の増加に歯止めをかけられていないという現状がある。日本が他の先進国に遅れをとっている理由として

は、性教育の遅れやHIV抗体検査の普及不足が挙げられる。中学または高校で一度はAIDSの授業を受けていると思うが、私は諸外国と比べると日本は性に関する発言はタブー視されていると思う。授業をする先生もいつもよりトーンが低かった気がするし、私も恥ずかしいという気持ちがあったのでまともに授業を受けた記憶はない。

このようなことを勉強会で学んできたのだが、これを聞いた友達、そしてピースマのメンバーはとにかく熱かった。タイのエイズホスピスへ赴き、途上国の現状を目の当たりにしてきたメンバーもいた。メンバーからはHIV／AIDSをこれ以上

ポートをしてくれる。みんなで助け合いながら活動を続けた結果、エイズに関する手作り冊子120部、コンドーム181部（エイズ予防財団提供）を配ることが出来た。

リーダー曰く、この結果はなかなかのものらしい。確かに私も凄い成果だと思った。しかし、私は悔しい気持ちでいっぱいだった。それは、自分は助けられてばかりでほとんど貢献出来なかったからである。せっかく勉強会に参加し、



んでいる。暇を持て余した春先が信じられないほど今は予定が埋まっている。しかし、私はこの忙しい現状に満足している。それは、活動をしていると必ず何か得られるものがあるからである。HIV/AIDSなど活動で得た知識は自分の今後に役立つし、なにより新しい友達が出来るといふ点が活動のメリットである。

もう一つは「学生（若者）には行動力がある」ということである。「近頃の若い者は」と言われることの多い私たちの世代。しかし、そんな私たちも一人ひとり、何かしら社会に対する想いを持っているはずである。そうした想いを持っているのも一人で行動するのはかなり勇気がいるが、同じ想いを持った者同士が集まり行動をすることで、私たち若者も周囲に影響を与えることが出来る。もし、このように活動に従事する若者が増えていけば年長者から小言を言われることもなくなると思う。

私たち若者が社会を引っ張っていく時代はすぐに訪れる。その社会環境を、私たちの意見なしに今、最前線にいる方々に決められては困る。私たちは今、自分たちの想いを世の中に発していかなければならないが、一人で行動するのは辛い。どうか一度、共通の想いを持った人たちと何かイベントに参加してみたい。きつ

自らも勉強して得たHIV/AIDSの知識を、活動に不慣れであることや緊張のせいでも十分に伝えることが出来なかった。自分の活動内容に納得がいかなかったということ、今回のみの参加ではせっかく持った知識が無駄になると思ったので、次回のチャリチャリにも参加させてもらうことにした。

## 二度目のチャリチャリ

内容は前回と同じだが、私自身のやる気になりの差がある。イベント前の勉強会、今回も参加したが学ぶ立場としてではなく、知識を伝える立場（先生役）として参加した。前回得た知識を基に予防方法などを伝えつつ、直近のHIV/AIDS感染者・患者者数を示すことで身近な病気であるということ、ピースマや私が本気で感染者を増やしたくないという思いを勉強会に来てくれた学生たちに伝えてイベントに望んだ。

快晴に恵まれたイベント当日、私は班の仲間3人と共に、ジャックモールとワールドポーターズで啓発活動を行った。啓発前は前回同様、緊張していた。しかし、知識が以前より定着していること、前回のうちに悔いを残すような活動はしたくないと思ったので、「無視されて

と貴重な経験になり自身の成長に繋がると思う。



## 参考文献

学生有志団体ピースマイルブログ（左記URL）  
<http://peace-smile-hkmrty.cocolog-nifty.com/blog/cat8102860/index.html>  
 HFW（ハンガーフリーワールド）HP  
[http://www.hungerfreeworld.net/special3\\_1.html](http://www.hungerfreeworld.net/special3_1.html)

当たり前。あたって砕ける」という気持ちで若者を中心に声をかけていった。一人目に声をかけるのは本当に緊張したが、この気持ちのおかげ次第に緊張もなくなり、知識と共にHIV/AIDSをこれ以上増やしたくないという想いを自分の言葉で伝えられるようになっていった。

みんなで一日活動した結果、冊子175部、コンドーム245部を配ることが出来た。この成果はこれまで三度のイベントの中で最大であった。全体の結果が良かったこと、そして、自分も今回は知識を伝えられ、貢献出来たという思いがあったので、私にとって非常に達成感のあるものとなった。

## 活動の薦め

私は今年、HIV/AIDS啓発活動以外にも学校外での活動をいくつか経験してきた。そして、こうした活動をしているうちに二つの想いが生まれてきた。一つは「自分が変わった」と思うようになったことである。私は元来面倒くさがりやであり、単独での行動を好む。何か特別な活動をするならば、その時間を自分の趣味の時間に費やしてきた。そんな私が今では趣味や睡眠の時間を削ってまで様々な活動に取り組